

## I-13. 科学技術の定点調査の調査設計に係る調査業務

Survey on the status of Science and Technology

<b>キーワード</b> Key Word	科学技術・イノベーション政策、研究人材、意識調査
	Science, Technology, and Innovation Policy, STI personnel

### 1. 調査の目的

本業務は、文部科学省科学技術・学術政策研究所が実施する「次期 NISTEP 定点調査に係る業務」（委託調査）で実施したものである。当該調査は、日本の科学技術やイノベーション状況をモニタリングする「科学技術の状況に係る総合的意識調査」（以下、定点調査）である。本業務では、第6期科学技術・イノベーション基本計画の実施期間中における科学技術の状況を把握するための調査設計を実施した。

### 2. 調査研究成果概要

#### (1) 調査の構造

本業務は、以下の3つの項目からなる。

①過去の定点調査のレビュー（有識者・関係者等インタビュー）では、現行の定点調査の当事者、調査結果の活用者（府省関係者）、調査の回答者、科学技術政策等の専門家を対象に調査の意義、課題、改善点に係る情報収集を行った。②次期定点調査検討委員会による検討では、有識者により次期調査に向けた調査フレームワークを提示し議論を実施した。

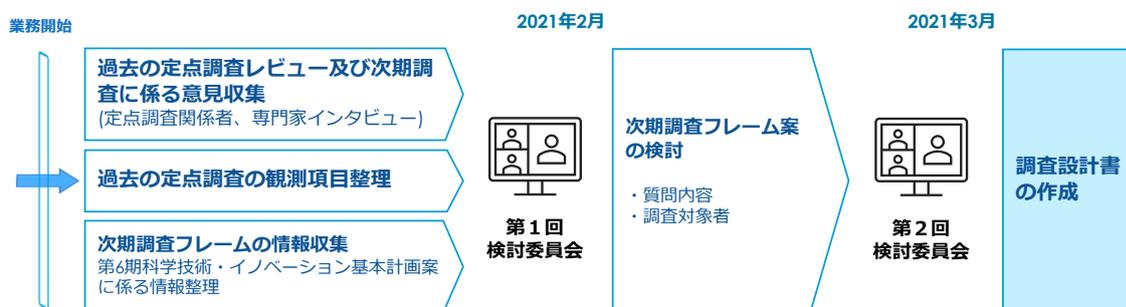


図1 本業務の全体プロセス

検討にあたっては、第1回検討委員会で次期調査の質問項目及び調査対象者を検討するため、第6期科学技術・イノベーション基本計画素案に基づき、科学技術・イノベーション政策の状況を把握するための項目のリストアップ等を実施した。

#### (2) 調査の内容

##### ④ 過去の調査のレビュー（ヒアリング調査）

本業務では、定点調査の意義、問題点、改善点に関する意見を収集するため、インタビュー調査を実施した。インタビュー項目は、インタビューの対象者の種別により異なる方法で実施した。

調査では、研究力の継続的把握の重要性や、研究力の多様性を阻害する要素の観測、日本人研究者の国際化に係る状況の把握等が示唆された。また、調査の意義では、研究者や研究環境の状況の経年変化を見ることができると、回答者グループによる回答結果のタイムラグを確認できる点、施策の論理的構造の検討に係る有用性が示された。

## ②調査のフレームワークの検討に係る調査等

第6期科学技術・イノベーション基本計画（素案）を元に、新機軸の検討を行った。第6期基本計画（素案）の2章の1では、データ相互接続やデータ流通、デジタル社会の人材育成等、研究のDXに関わる項目が挙げられている。オープンイノベーションの拠点整備・推進や、エビデンスに基づく戦略策定、総合知の活用（将来シナリオ、課題解決等）、研究インテグリティ等が挙げられた。2章の2の研究力の強化では、従来の項目（若手研究者、女性研究者、学術・基礎研究、研究施設・設備）のほか、国際交流、国際頭脳循環、総合知の活用、研究データ管理支援やシチズンサイエンスの環境整備としてのDX関連項目に係る内容が示されている。3章の科学技術・イノベーション政策の推進体制の強化では、①知と価値の創出のための資金循環の活性化、②官民連携による分野別戦略の推進、③総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能の強化からなる。

## ③有識者による調査設計に係る検討

次期定点調査検討委員会では、第6期基本計画期間（2021年度から2025年度まで）中に実施予定の科学技術の定点調査において、これまで以上に科学技術・イノベーション政策の立案等に役立つものとするために、①何をモニタリングすべきか、②調査の継続性を保つ仕組み、分析をより深化させるための工夫等について検討し、調査設計に対する助言を得た。

第1回検討では、次期調査の質問項目と調査対象者を、第2回検討では、調査対象者と継続性、質問案に係る検討を実施した。これらをまとめたものとして、③次期定点調査設計書を作成した。

表1 検討委員会での検討事項

開催回	検討事項
第1回検討委員会	i) 科学技術の状況に係る総合的意識調査定点調査について ii) 第4期NISTEP定点調査の質問項目と調査対象者について
第2回検討委員会	i) 第4期NISTEP定点調査における質問（案）について ii) 第4期NISTEP定点調査における調査対象者について

## ③調査設計書

調査設計書は、①質問項目の見直し、②調査対象者の想定からなる。前者については、第5期基本計画中に実施された定点調査の質問項目と第6期基本計画（素案）で取り上げられた項目の比較検討を行い、継続的に質問すべき項目の整理を行うとともに、第6期基本計画と照らし新たに質問すべき項目案の追加等を行った。また、後者については、これまでの定点調査の回答者群を踏まえ、新たに追加すべき回答者群の検討を行った。

次期定点調査の検討においては、これまでの大学・公的研究機関からの回答者を拡充するとともに、科学技術・イノベーションの状況をより多面的な観点から評価いただくための回答候補者群についての情報収集等を行った。具体的には、大学・公的研究機関グループとして、人文・社会科学関連事業に参画した研究者のリストアップを行ったほか、俯瞰グループに係る回答者群として、総合知、国際・地域に関わる回答者群を追加した。

## (3)主な成果

本業務では、第6期基本計画（素案）を踏まえ、2021年度からの計画期間中に継続して、政策の実施状況をモニタリングする項目等を整理した。また、定性的評価の有用性等に係る様々な示唆が得られた。